

# 文芸 さくらがわ

## 俳句

【天和俳句愛好会】  
毛糸帽耳まで入れる風の道

鈴木 ふみい

もんべいも不用となりて冬木の芽

田中 はつひ

億劫を覚える齡鴟日和

古橋 益子

吹き晴れて風音ばかり冴え返る

鈴木 つぎ

つつがなく米寿となりて菊盛り

代田 とし

小春日や臥てあやす児胸の上

皆川 和子

健康で俳句の仲間冬木の芽

鈴木 登美子

ためらひを重ねて八十路よ年新た

田代 てい子

書き終えて指の先まで日脚伸ぶ

安達 幸子

働ける力貰いて黄水仙

岩瀬 のぶ子

【一般投稿】

我が誇り伝建の里に福寿草

木村 健一

## 短歌

【花の室 木崎集】  
うつつ世にあらざる汀に打ち返す風のごゑなる波のごゑなる

塚田 沙玲

道端の小菊の群れに蜂が飛び誇らしそうに光を浴びる

大久保 まさ子

夜来雨上がりて筑波の峰さやか山並み近かりわが庭と見る

櫻井 ハル子

雨引山朱の仁王門潜りぬけ延命水の冷たさを汲む

塩谷 明子

みどり葉にみかんの皮の黄を添へしままごと遊びのサラダを食みぬ

鈴木 とみ

教え子ら受付に立つへ椿姫へ故郷下館にはなやぐ文化

塚本 幸子

我が日記に文字のなき日の多かりき母と過ごしし大事な最期

西岡 和子

落書の板戸よりもる光の矢重なり来たりはるかなる日日

野村 幸男

街並を黄一色に染めあげて銀杏並木は陽を受けつつく

深谷 快子

【岩瀬短歌会】

嫁の車も十年乗りて疲れしか買ひ替へのごと遂に決めたり

小林 むら

友の家の屋敷続きの蕎麦の花ゆれゆれて白きささ波寄する

片岡 喜知子

子等に添ひ三十三回忌の夫に掌を合はせ感謝の心届きたりしや

山田 しげの

叔母に似合う服をとその面浮べつつ店內時をかけて選びぬ

大久保 富美江

秋の空あくまで深しスカイツリーただならぬ世を見下して居る

五月女 静江

吹き終へしガラスに当たり雀蜂鈍き羽音に飛び去りゆけり

鈴木 美津子

ふりかかる火の粉は払はねばと夢にあなたはわれを氣遣ひ呉るる

三井 弥生

金魚掬いの腕前孫に見せたくて本気ですくう出目金二ひき

渡辺 しな子

隣家の主に似たり垣に咲くまつたき白の一重さざん花

小林 美瑛子

【岩瀬萩歌会】  
蔵掃除五十餘年を仕舞はれて使ふことなく捨てらるる衣

安達 悦子

我が胸に極めし短歌を抱きしめて教室に行く今日たのしかり

安達 すみ子

犬走りを柿の枯葉がころげ行くかさこそかさこそ眩きながら

大関 節子

水平線に昇る朝日の燃ゆる陽に思はず祈る今日の船旅

角田 玉枝

老夫逝きて誰がため生きん夢もなく木枯寒き師走となりぬ

坪井 ゆき子

厳冬に耐へて咲きたり梅の花香りほんのり初春の便り

長谷川 玲子

身めぐりの逝きにし人を偲び出づ軒打つ雨音真とせまり来

石川 喜代

【一般投稿】  
大学の孫の横顔ともすれば若き息子と見まごう我わ

大山 しげ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ